

## 仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画中間素案についてのご意見(9月20日照会)

委員からのご意見		対応等
4ページ	<p>食育の4分野が基本的に変わらないのはなぜか。5分野になったと書いたほうがいいのではないか。</p> <p>また、その理由を書かないと意味が通じないように思う。4分野のままで、特に「生産・流通・消費の一連の食の循環を意識し、環境に配慮した食育」の取り組みを強化するというような受け止めになり、意味が変わるような気がした。</p>	<p>国の第3次食育推進基本計画では、生産の場の理解、地産地消の推進と、食の循環や環境への配慮を一連のものとして、重点課題に掲げているため、「生産・流通・消費」の分野に加えています。</p>
6ページ	<p>推進の柱①の右側の「～自己管理する力」「生活習慣病を予防する～」に関連して、取り組みの方向性に「適正体重の維持」「減塩(につとめる)」等のキーワードが入れられるとよいと思う。仙台市は宮城県の主要都市で、宮城県はメタボのワーストが続いていること、平成28年の国民健康・栄養調査では、宮城県の男性の食塩摂取量が最も多くなっていたからである。</p>	<p>中間評価で、20～60歳代男性の肥満が増加傾向だったこともあり、7ページ「ライフステージごとの取り組み目標」の「壮年期」に加筆いたしました。</p>
7ページ	<p>より具体的で分かりやすい中間素案になっていると思う。ライフステージごとの取り組み目標の中のステージが、「児童期～思春期」から「学齢期」となり明確になった。文章の中で「思春期の後半は～」を「学齢期の後半は～」と修正したほうがよいのではないか。</p>	<p>ご提案のとおり、修正いたしました。</p>
7ページ	<p>基本目標と推進の柱については、委員の皆様のご意見が反映され、わかりやすい形に整理されたと思う。</p> <p>「市民のライフステージごとの取り組み目標」の中で、特に指標の達成状況を示す調査データから、改善が望まれる「青年期」の文言を、「～生活が大きく変化する中で、朝食をとらなくなる、野菜を食べる頻度が低くなるなど、健康的な食習慣への意識が薄れる傾向が課題として見えています。生涯にわたる健康づくりのための自己管理能力を高め、次世代に食の楽しさや大切さを伝える役割を担えるよう、興味と関心をもって積極的に食にかかわりましょう。」と、修正することを提案する。</p> <p>農水省が掲げる「健康寿命の延伸につながる食育の推進」を意識した働きかけが「青年期」に対してできるよう望む。</p>	<p>ご提案のとおり、修正いたしました。</p>
8ページ	<p>「具体的な取り組み」の、「食育の情報を広く発信します」について、大学も専門知識を生かして市民講座などを積極的に行っているのので、関係機関に「大学等」と追加願いたい。</p>	<p>追加いたしました。</p>
19ページ	<p>働き盛り世代への対策で、企業・団体等へ情報提供とあるが、どのくらいの規模の企業か。中小企業や個人事業主に対しての情報提供はあるか。</p>	<p>現計画での取り組みにおいては、むしろ小規模事業者に対する情報提供を実施してきたところです。個人事業主も含め、商工会、健康保険組合等と連携して推進することが必要と考えます。</p>
その他	<p>「評価」から出た「課題」に対する「具体的な対策」は、誰がどのように行うのか。</p>	<p>仙台市食育推進会議を構成する各主体を中心とした関係機関、仙台市がお互いに連携・協力しながら推進するとしています(P2)。</p> <p>また、具体的な取り組みについてP8～15に記載します。</p>
その他	<p>仙台市の食育の定義はどこかに書いてあるか。</p>	<p>食育基本法における食育の定義をP1に記載しました。これが当市においても定義となります。</p>

今後の具体的な取り組み等についてのご意見	<p>これまでの推進活動と指標の達成状況をもとに拡充化、細分化されよくなったと思う。特に、関心のない若い世代への働きかけをどのように進めていったらよいかこれがこれからの課題である。</p>
	<p>推進の柱が5本になって、分かりやすくなった。食品ロス/環境問題/フードマイレージ/トレーサビリティ、今取り組まなければならない重要問題なので、目標が見えやすくなったと思う。</p>
	<p>具体的に分かりやすい内容になっている。幼児期、学齢期での親への食に対する大切さの啓発をしていくことの重要性が伺える内容となっているところが良いと思う。</p>
	<p>社会構造の変化に伴い、生活習慣の変更も余儀ない現状においても生命の維持においての必須事項である食事は変わらないものである。時代の変化にフレキシブルに対応する中で健康維持を根底に持ちながら文化継承を担う食育の推進は一日にして成るものではないが大切なものである。 後期計画においては、その時代とともに変わる食の循環、それを取り巻く環境にも言及して行くが、個人の取り組みのほか、生産、流通など周辺への啓蒙、協力要請もこの分野では必要な要件と思われる。</p>
	<p>地域で食育についてと地産地消をよりいっそうすすめると共に、行事食の普及に頑張っていきたいと思う。</p>
	<p>近年、保育施設、幼児教育施設の形態が多様化する中、栄養士未配置の施設もあるのが現状。アレルギー問題もある中、本来の基本目標を多くの現場に取り込まれる体制づくりも重要である。それをしなければ、実際に健康づくりを実践できる施設が偏るのではないかと懸念する。</p>
<p>年々高齢化が進み、独居者の増加、買い物難民、孤立化など様々な問題を呈している。有料でも月数回の食事提供の場所を検討する時期にきているのではないか。</p>	